びわこ文化公園植物だより〔β 版〕

ヤマボウシ ミズキ科

学名 *Cornus kousa*

・花期： 5 月下旬～6 月上旬

　ヤマボウシは、梅雨どきの緑濃い林の中で白い雲がたなびくように純白の花を咲かせる木です。滋賀県内では普通に野生で生えていますが、花が見事である上に丈夫で育ちやすく、また巨木にならず扱いやすいので、庭園樹・公園樹としてよく植えられます。

近年ではよく似たアメリカヤマボウシが別名の「ハナミズキ」の呼び名でよく知られ、ヤマボウシ以上に愛されているのが現実かもしれません。ヤマボウシの説明をするときにでも「ハナミズキに似ている」と言ったほうが通じやすいのは少々複雑な気分になります。

ヤマボウシもアメリカヤマボウシも大きな花びらが4つあるように見えますが、これは花びらではなく、花の集まりを包む葉が花びらのように変形したもので、「苞」（ほう）といいます。ヤマボウシの苞は先がしゅっととがっていますが、アメリカヤマボウシの苞は先端が摘まんだようにくぼんでいるので、簡単に区別することができます。といっても、アメリカヤマボウシの花が咲くのはゴールデンウィーク前後ですから、花期の違いだけでもまちがいようはないのですが。

「ヤマボウシ」は、漢字で書くと「山帽子」ではなく「山法師」です。「山法師」とは、比叡山の僧兵のあだ名でした。平安時代に絶大な権力を振るった白河法皇が、自分の思い通りにならないものとして、賀茂川の水・双六（すごろく）の賽・山法師の3つをあげて嘆いたのは

有名です。ヤマボウシの名は、白い苞と、その真ん中にある花の丸い集まりを、肩まで覆う白い頭巾をかぶった坊主頭の僧兵に見立てたものです。弁慶の姿といった方がイメージしやすいかもしれません。ヤマボウシの花は水平に広がった枝に一面につきますから、押し寄せる僧兵の集団といったところでしょうか。

　ところで、ヤマボウシには雌の木と雄の木があります（雌雄異株）。遠目には同じように見えますが、近づいてよく見ると、真ん中に集まった花の部分の形が違うのです。言葉では表現しにくいので、下の写真を見てください。ヤマボウシが手の届く高さに咲いていたら、雌か雄か、あてっこしてみませんか？

ヤマボウシの雌株（左）と雄株（右）の花序

見事に花をつけたヤマボウシ（夕照の池の北側）

　ヤマボウシの雌株がつける丸い果実（集合果）は、秋が深まって霜が降りる頃にくすんだ赤色に熟します。果肉はやわらかく少し甘く、古くなってドロドロになったバナナのようです。夏はまだこれからですが、生き物たちはすでに秋に向かって走り始めています。

ヤマボウシは ここ や ここ で見ることができます（ほかにも園内各所にあります）。

（龍谷大学 農学部　三浦励一）